



2020年8月1日発行
1947年10月27日
第3種郵便物認可
発行所/日本YMCA同盟
東京都新宿区本郷町2-11
THE YMCA神戸版
神戸YMCA
〒650-0001
神戸市中央区加納町2-7-11
Tel 078-241-7201
Fax 078-241-7479
www.kobeymca.org
発行人/井上 真二
編集人/西田 勉
印刷/有わかばやし印刷

YMCA News



年間聖句

「命の泉はあなたにあり
あなたの光に、わたしたちは光を見る。」(詩編36編10節)

#はなれていてもつながっているキャンペーン

あなたと、あなたの周りの誰かのいのちを守るために

全国のYMCAで「#はなれていてもつながっているキャンペーン」を実施しています。

#はなれていてもつながっているキャンペーンは、私たち一人ひとりとその周りにいる大切な人たちのいのちを守るためのキャンペーンです。今は、物理的な距離を取らなくてはならない時。自分の日常を変えていくことは、簡単ではありませんが、ほんの少し創造的に毎日を過ごしてみましょう。会えない人に電話をしたり、近隣の人に挨拶をしたり、医療や福祉に従事している方への励ましを言葉にしたり。今をポジティブに乗り越える方法を探してみましょう。安全のために、はなれていても、わたしたちはつながっています。



いまこそ、#ポジティブネット。

ポジティブネットは、互いの存在や個性を認め合い、高め合うことのできる、善意や前向きな気持ちによってつながる、YMCAが提唱するネットワークです。

「2020年度総会は書面による決議となりました」

昨年、新しい試みとして、神戸YMCAに関わる人たちが一堂に会する日として、総会とリーダー委嘱式、会員相互の学びと交わりの時の3部構成の「神戸YMCA大会」を実施いたしました。しかし今年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響を受け、総会のみ、それも書面による決議として実施せざるを得ない状況となりました。この困難な社会情勢においても、我々は「はなれていてもつながっている」ことを意識し、私たち一人ひとりとその周りにいる大切な人たちのいのちを守り、育てることを大切に考えます。

こくさいのまど

チェンマイ・神戸YMCA共働プロジェクト 第34回チェンマイ・神戸YMCAコースワークキャンプ

2020年3月11～14日、第34回チェンマイ・神戸YMCAコースワークキャンプがラオスのルアンパバーン県Pak Ou中等学校にて開催されました。チェンマイ・神戸YMCAコースワークキャンプがルアンパバーンで開催されたのは今回で2回目です。しかし、新型コロナウイルスの感染が世界中に拡大したため、神戸YMCAとチェンマイYMCAからのコース派遣は叶わず、ラオスのコースのみでワークキャンプを実施することになりました。

このワークキャンプは、生徒や村人に環境の大切さを学ぶことを目的とした「Greener School Ground and Organic Garden / 校庭の緑化と有機農園」という学校プロジェクトを支援するために実施されました。ワークキャンプでは主に有機農業の演習と環境保全の技術訓練(有機農園で使用する貯水タンクの設置)とボランティア活動が行われました。

ラオスのコースやワーク地の村人、Pak Ou中等学校の生徒にとって環境問題について学び取り組むことは初めての経験となりました。有機農園の土壌を耕し、畑に流す水の仕組みを学び、貯水タンクの設置に取り組みました。後日、有機農園にはかぼちゃやナス、朝顔とほうれん草がなり生徒や農園の世話をしている保護者もプロジェクトの成功を喜んでいました。農園でできた野菜は給食に使われます。若い生徒が1日に必要な栄養が確保できることを願っています。今回のコースワークキャンプを通してラオスのコース、教師とルアンパバーンYMCA職員の絆を強める機会となりました。

今回の学校プロジェクトには国際協力募金を用いられました。いつもコースワークキャンプをお支えいただいておりますワイズメンズクラブ六甲部の皆様をはじめ多くの方々にご支援いただきましたことを感謝申し上げます。



神戸YMCAポジティブネット募金

1.子どもたちに学びや体験機会を提供するために(目標額400万円)

YMCAはコロナ禍にあっても、子どもたちの学びや体験の機会を大切にします。CampingOnlineとして、子どもたちがオンラインで感染症拡大防止の知識を学んだ上で、野外活動やキャンプへ参加する取り組みを開始しました。また、子どもたちの水泳プログラムでは、密を避ける対策として隔週でプログラムを行い参加者数の制限を行ってきました。(8月まで)YMCAではプログラムを通して「自らの命を守る」教育を実践しており、感染症対策に対する正しい知識を伝える機会にもなっています。子どもたちの大切な命を守り育てるプログラムを継続して行うためにご支援ください。

2.ユースの学びと生活を支援(目標額800万円)

ユースの学びと生活を守るために神戸YMCA専門学校日本語学科、ホテル学科、高等学校の学生を支援します。オンライン授業のための受講環境整備や家計急変等経済支援のために給付金の支給や生活物資支援等を行いました。また、子どもたちにとって憧れのコースボランティアリーダーを育て続けるために感染症予防の徹底等、ユースが安心して活動できる対策を講じています。ユースの学びや生活支援にご協力ください。

3.地域支援(目標額300万円)

どんな時でも、YMCAは子どもたちの居場所を守ります。緊急事態宣言中も保育や特別な支援が必要な子どもたちが安心して過ごせる場所、保護者が安心して子どもを預けられる場所を提供し続けてきました。今後も感染症予防対策を講じた上で、地域の子どもの居場所を守り続けていくためにご支援ください。また、YMCAではオンラインを駆使した新規プログラムをスタートしています。1人でも多くの方がYMCAとつながり、健康的な生活を維持するためのオンライン環境整備にご支援ください。

神戸YMCA寄附サイト
<https://kifu-kobeymca.org>



ちとせ幼稚園

「三角ログハウス」

このコロナ禍にあっても、またこの暑さにあっても、ちとせ幼稚園では人気の遊び場「三角ログハウス」。ただ、登って、滑り降りるだけの遊具に見えますが、年少児から年長児の3年間においてこの遊具が子どもたちの様々な感情を刺激します。遊具に遊ばされるのではなく、どう遊ぶか？子どもたちにとってこの遊具こそ、「上に登りたい！！」という簡潔明瞭な動機付けが与えられ、チャレンジするのです。しかし、年少児の最初はもちろん登れません。何回やっても登れず、最後には「登らせて！！」と教諭をお願いしてきますが、決して登るためのお手伝いはしません。登られた子は、降りる際に力が備わっておらずケガをするからです。何度も何度も失敗し、工夫し、やっと登れるようになった時の達成感は、それこそかけがえのない瞬間です。その瞬間に立ち会い、その感情に共感することが、私たちの本来のお手伝いであり、心の成長につながるかと信じています。今日も笑顔あり、涙あり、喜びあり、悔しさあり・・・心と身体を使った遊びをこのコロナ禍にあっても大切にしていきたいと思っています。



2020年度総会(書面による決議)を終えて

- 名誉会員のご紹介** 新しく名誉会員となられた方々をご紹介します。名誉会員とは、通算20年以上神戸キリスト教青年会(以下、本会)の維持会員であって、本会の発展に特に貢献があった方の中から、常議員会の推挙を受けられた方々です。(紙面の都合上、お名前のみのご紹介となりますがご了承ください) 河合純子さん、小泉啓子さん、武田建さん、柳谷利起さん、山口政紀さん
- ボランティア奨励賞** ボランティアとして特に顕著な貢献をされた方をご紹介します。現場責任者等からの推薦を受け、常議員会にて推挙された方々です。
 - ・野島紫月さん(ウエルネスセンター学園都市より)
 - 学生時代はコースボランティアとして野外活動やサッカーを担当し、社会人になってからもボランティアとして活動に関わってくださっています。持ち前の明るさと丁寧なコミュニケーション力、子どもたちだけではなく後輩リーダー達の良きお手本として、また保護者の相談相手として大きな信頼を得ています。
 - ・井上秀城さん、夜久明さん(西宮ランチより)
 - 神戸YMCAが指定管理者として運営する西宮市香櫛園留守家庭児童育成センターでボランティアとして、子どもたちに将棋を教えてくださいました。将棋という遊びを通して、育成センターの子どもたちと深く関わり、子どもたちの育ちを支援員と共にいつも優しく見守り続けてくださっています。
- 新常議員、監事** 新しく常議員として選任された方々です。よろしくお願いたします。(紙面の都合上、お名前のみのご紹介となりますがご了承ください) 家山華子さん、西脇慎一さん、秀平悠磨さん、山本俊正さん、藤田裕さん
- 旧常議員、監事** 常議員、幹事を退任される方々です。常議員常議員会が設置されてからこれまで順守していなかった役員選任の制限(3期6年)を順次守っていきとしました。再任の際はまたよろしくお願いたします。 阿部俊さん、大野勉さん、長井慎吾さん、古澤啓太さん、安行英文さん

灯台「レジ袋有料化」



総理事
井上 真二

NO.28

レジ袋の有料化は環境省によって7月1日より義務化されました。マスクの着用が習慣化されてきたように、マイバッグや袋を持ち歩くことにも慣れ、マイボトル、マイお箸も同様ですが日常生活に浸透してきたと感じています。国連が掲げるSDGs(持続可能な開発目標)の取り組みも様々なところでされていますが、その17の目標のうち、以下の通り、プラスチックごみ問題に深く関わるものが多いです。

- 目標7: エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 目標13: 気候変動に具体的な対策を
- 目標14: 海の豊かさを守ろう
- 目標15: 陸の豊かさを守ろう

このレジ袋有料化により、「レジ袋はプラスチックでできている」という意識を強く持つようになり、またし、私たち消費者がそれをを使うか、使わないかを自分の意思で選択する(できる)ように、日々の生活の中で見直しと改善を繰り返しながら、エコロジーを考え、実行していきたいと思えます。またこれと同じ時期に、大手菓子メーカーへの容器包装の削減を呼びかけた女子高生の署名活動も話題になりましたが、これまでも海外から指摘されてきた日本特有の過剰包装のあり方というのと同じように見直される機会なのかもしれません。簡単なお土産にも一つ一つ個別の袋をつけたり、お菓子の個包装等があります。日本人らしい気遣いや美徳だけではなく、湿気が多い日本では賞味期限が長くなるとか、鮮度や形が保たれるとか、それが食品ロス削減にも関係してくる等、このようなSDGsの取り組みにおいては様々な考え、多様な視点を生かすことが私たちに求められるのでしょう。

神戸市立太山寺児童館、小寺学童保育コーナー

太山寺児童館学童保育クラブ、小寺学童保育コーナーの子どもたちは、少し短い夏休みを終え、8月18日から小学校の2学期が開始され、残暑そしてコロナウイルス感染症対策をしながらの生活を送っています。



2020年度の夏休みは、子どもたちにとっても楽しみにしているプログラムの一つ「夏祭り」の実施を見送ることとなりました。他にも例年であれば行われていた学童保育でのプログラムも延期・中止はありますが、ただ中止するのではなく、「どうすれば実施できるか」指導員・指導者のみなさんと相談をしながら例年とは違うものの「この時だからできること」として考え、実施できたプログラムもありました。

自分の作った物で遊べる工作や水遊び、室内での「秘密基地づくり」など、夏祭りでの出店内容を細分化したような内容にし、複数の日程や時間を設けて人数を分散させて実施しました。

この時だからこそ考えて工夫をし、子どもたちや保護者の皆さまにも理解と協力を得ながらそれぞれが「楽し」に向かって取り組めた夏休みでした。

垂水体育館

新型コロナウイルスによる緊急事態宣言解除後、垂水体育館でも感染症対策を実施して6月より再開しています。具体的には、来館時のマスクの着用、運動中も人と人との距離をとっていただくことや、卓球などの設置台数の制限と利用毎の消毒作業、スポーツ用具等の貸し出しも一部中止となり感染が拡大しないよう、ご利用いただく皆様のご理解とご協力によって施設運営がなされています。

また、万が一の備えとして、使用される毎に利用時のチェックリスト提出いただくことや、兵庫県新型コロナウイルス追跡システムに施設として登録しており、迅速に注意喚起情報を提供できるよう公共施設として体制を整えています。



このような状況下ではありますが、6月初めには、感染対策をした上で近隣小学校への救命講習を実施するなど体育館として地域貢献させていたできました。

イベントや大会など地域でも開催が難しい状況が続きますが、多くの方に親しまれる体育館として、できることから地域へ貢献をしていきたいと思えます。

感謝・寄附

(敬称略、順不同) (前号掲載以降～8/31現在)

《寄附・献金》

中山 豊美、大山 裕子、森 明彦、梅谷 忠利、鈴木 めぐみ、浅井 まゆみ、夏山 素子
国際ロータリー第2680地区 神戸西ロータリークラブ、西宮ワイズメンズクラブ

《学生生活支援募金》(新型コロナウイルス感染症による)

田村 光、河合 純子、小谷 京・せつこ、大野 勉、大田 厚三郎、林 敬子、井上 真二、三上 展、杉原 賢治、松井 千鶴子、田辺 征一、中出 恵子、神野 敬子、濱瀬 真知子、加茂 周治、上杉 徹、松田 道子、井出 浩、井出 富光子、尾上 尚司、進藤 啓介、安東 元、今田 哲、水間 美宏、財部 仁子、多胡 進、岡澤 順治、中田 杉子、小田 浩、中島 靖人、功力 正士、櫻井 英治、森脇 俊道、中島 孝幸、岩井 義夫、森野 穂波、浅井 まゆみ、日本キリスト教団夙川東教会

《ポジティブネット募金》

青柳 美知子、石田 由美子、井上 聖、今田 和子、加藤 光信、小林 康男、鯖尻 佳子、杉谷 和代、武田 寿子、多胡 進、長尾 亘、福田 宏子、福田 素子、堀江 裕一、吉田 明、若林 成幸、那家 学、福家 清美、大野 智恵、杉山 秀光、大野 勉、水野 雄二、柳 敏晴、馬場 一郎、館 忠之、齋藤 靖、中田 杉子、権藤 みか、畑中 よしみ、平林 茂、朝比奈 彩未、神戸YMCAベルクワイアー、神戸ワイズメンズクラブ、西宮ワイズメンズクラブ、神戸ポートワイズメンズクラブ、神戸西ワイズメンズクラブ、宝塚ワイズメンズクラブ、さんだワイズメンズクラブ、神戸学園都市ワイズメンズクラブ、芦屋ワイズメンズクラブ

《国際協力募金》

沼田 耕希、主恩教会女性会、フランス料理「Vérité」

感謝をもってご報告します。

誰もがテクノロジーで世界を変えられる!

“Anyone can make a change to the World with Technology”

YMCA・アマゾンジャパン合同会社・ライフイズテック社による共同事業である「Amazon Future Engineer」の一環として、プログラミング体験講座を予定しています。

「Amazon Future Engineer」とは、様々なバックグラウンドを持つ若者に、ITやプログラミングを学ぶ機会を提供するための教育プログラムで、2018年秋に米国でスタートしました。

日本では、2019年9月にパイロットプログラムをスタートしました。中高生へのIT教育で実績のあるライフイズテック社、YMCA、Amazonが協力し、全国でプログラミング教室を展開しています。神戸YMCAではこの春に学園都市で行われ、この秋には三宮会館でも開講予定です。詳細が決まればHP等を通じてお知らせいたします。



大塚章信さん、奈良傳賞を受賞!

神戸YMCA名誉会員の大塚章信さんが奈良傳賞^{*}を受賞されました。心よりお祝いを申し上げますとともに、大塚さんとYMCAの関わりについてご紹介させていただきます。

大塚さんは1953年4月に当時生田神社の横にあった神戸YMCA英語学校に入学されたのがYMCAとの最初の出会いです。学校には宮田満雄氏(後の第10代YMCA理事長)が先生としてお勤めであったとのこと。当時、YMCAでは英語だけではなく青少年活動も盛んに行われており、青年のグループ活動も活発でした。大塚さんもやがて成人を迎え、活動の軸も英語学校から実業少年クラブのリーダー、青年部の活動へと移り、1979年に神戸ワイズメンズクラブに入会されました。その後もYMCAの理事、常議員を務めていただき、YMCAの運営、発展に大きく寄与していただいています。



^{*}奈良傳(つたえ)賞とは日本ワイズメン運動創始者の一人で、戦前のワイズ担当主事、戦後初の日本区理事、国際副会長、初代日本区管理主事として生涯をYMCAとワイズの発展のために尽くされた故奈良傳氏を記念して、1982年に創設された栄誉ある個人賞である。(HANDBOOK&MEMBERSHIP ROSTERより)

SDG4教育キャンペーン2020

「持続可能な開発目標(SDGs)」が掲げる目標4「質の高い教育をみんなに」は、すべての子どもが質の高い就学前教育、初等教育、中等教育を受け、大人の識字率も大幅に改善することです。「SDG4教育キャンペーン」は、SDGsのゴール4(教育目標)を達成するための世界規模のキャンペーンです。今年度は、神戸YMCA学院専門学校ホテル学科の学生53名が参加しました。

皆様は現在、世界に2億5800万人の子どもたちが小・中・高校に通っていないのをご存知でしょうか? また、読み書きができない成人は7億5,000万人も存在します。日本においては、外国にルーツを持つ児童・生徒の内6人に1人(約2万人)が小・中学校に不就学状態になっている可能性があります。日本国内にも、すべての人に包括的かつ公正な教育を保障するためにはまだまだたくさん課題があります。

今回、ホテル学科の学生は「外国にルーツをもつ子供や大人」がどうすれば教育を受けることができるのか議論し声を出し合い政府への政策提言を作成しました。学生が考えたアイデアと感想をいくつかご紹介いたします。

▼日本政府に取り組んでほしいこと

- 外国人への差別をなくすために、住みやすい街づくり、行きやすい学校環境の整備をしていただきたいです。
- 外国にルーツを持つ子どもや大人が日本語の教育を受けられる環境を増やしてほしいです。
- 日本語の教師を増やすために学校教員免許に日本語教育の資格を追加すると子どもたちへの日本語教育をカバーできると思います。

▼授業に参加して...

- 外国にルーツを持つ子どもたちが日本語教育を受ける機会が少ないのを初めて知りました。
- 日本人だけで考えるのではなく、外国人の意見をもっと聞かないと問題は解決しないと思いました。
- 自分たちが平和に過ごしている時間も身近なところでいろいろな問題があることに気が付きました。

ホテル学科には留学生も在籍しています。留学生が率先して日本語の難しさについて話をしてくれたり、外国人への差別と教育の大切さについて話し合ったりすることができました。学生にとってはSDGsが掲げるゴールが自分たちにも関係していることに気づく機会となりました。



SDGs4教育キャンペーンは、教育協力NGOネットワーク(JNNE)が主催で日本YMCA同盟も実施団体として登録されています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



ファミリーウエルネスセンター
ランゲージセンター
専門学校
西宮YMCA
余島野外活動センター
デイキャンプ&コミュニティサービス(兼キャンプ事務局)
国際・奉仕センター
ウエルネスセンター学園都市

☎078(241)7202
☎078(241)7204
☎078(241)7203
☎0798(35)5987
☎0879(62)2241
☎078(241)7216
☎078(241)7204
☎078(793)7401

西神戸YMCA
神戸YMCA高等学院
YMCAおひさま
西神南YMCA
須磨YMCA
YMCA保育園
西宮YMCA保育園
西神戸YMCA保育園

☎078(793)7402
☎078(793)7435
☎078(793)9077
☎078(993)1560
☎078(734)0183
☎078(794)3901
☎0798(35)5992
☎078(792)1011

神戸学園都市YMCAこども園
神戸YMCAちとせ幼稚園
YMCAちとせ保育ルーム
西神戸YMCA幼稚園
西宮つとがわYMCA保育園
あかしこども広場
学園都市YMCA保育ルーム

☎078(791)2955
☎078(732)3542
☎078(786)3821
☎078(997)7705
☎0798(26)1016
☎078(918)6355
☎078(794)3045

